



# 2025年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Dec.11<sup>th</sup>.2025

## 2025年10月期 決算の概況

### 連結

売上高 28,895 百万円  
(前期比+3.5%)

営業利益 1,794 百万円  
(前期比△17.6%)

### 光事業

売上高 15,310 百万円  
(前期比+9.8%)

営業利益 △799 百万円  
(前期は△800 百万円)

### エレクトロニクス事業

売上高 13,585 百万円  
(前期比△2.7%)

営業利益 2,593 百万円  
(前期比△12.9%)

- 光事業は前期比増収となったものの、主に原材料費高騰のため利益水準は同程度で推移
- エレクトロニクス事業は半導体露光装置向け製品の在庫調整が継続したため、前期比減収、減益
- 米国関税政策の影響は軽微

## 2026年10月期 業績見通し

### 連結

売上高 28,900 百万円  
(前期比0.0%)

営業利益 1,100 百万円  
(前期比△38.7%)

### 光事業

売上高 15,300 百万円  
(前期比△0.1%)

営業利益 △700 百万円  
(前期は△799 百万円)

### エレクトロニクス事業

売上高 13,600 百万円  
(前期比+0.1%)

営業利益 1,800 百万円  
(前期比△30.6%)

- 光事業は価格改定と原価低減を進めるが、レアアース調達リスク対応に関連した費用が発生する見込み
- エレクトロニクス事業は半導体露光装置向け製品の在庫調整が26/10期上期末まで続くため製品ミックスが変化する見込み



# CONTENTS

## 1 2025年10月期 決算の概況

---

- 業績サマリー
- 光事業①
- 光事業②
- エレクトロニクス事業①
- エレクトロニクス事業②
- キャッシュ・フロー

## 2 2026年10月期 業績見通し

---

- 見通しサマリー
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費
- キャピタルアロケーションの考え方
- 中期経営計画の進捗
- 新規事業の取り組み
- 既存事業の取り組み

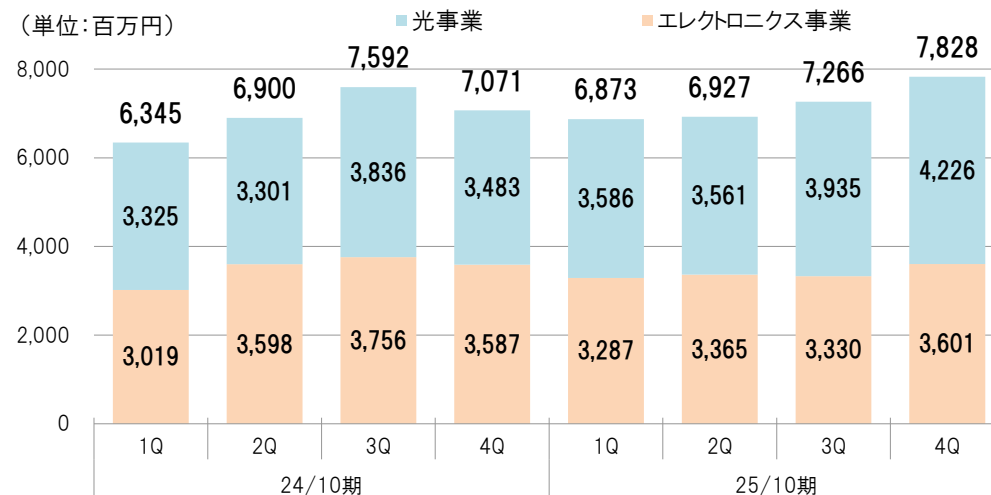
# 2025年10月期 決算の概況

(単位:百万円、%)

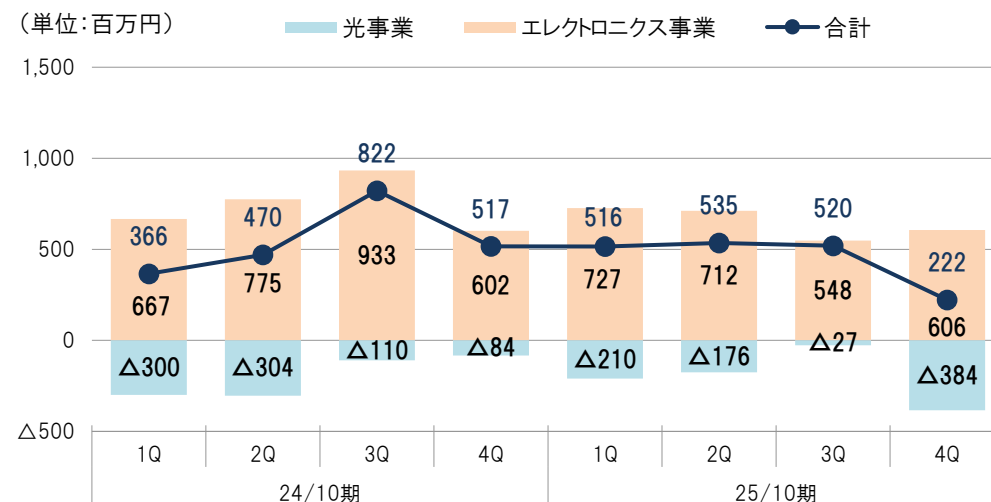
	24/10期 通期	25/10期 通期	増減 増減率
売上高	27,909	28,895	986 3.5%
営業利益	2,177	1,794	△383
[営業利益率]	7.8%	6.2%	△17.6%
経常利益	2,587	2,289	△298
[経常利益率]	9.3%	7.9%	△11.5%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,568	1,730	162
[純利益率]	5.6%	6.0%	10.4%
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 150.54 163.59	期中平均 149.34 166.06	

25/10期通期の純利益(親会社株主に帰属)は投資有価証券の売却益を計上したことなどから、前期比増益

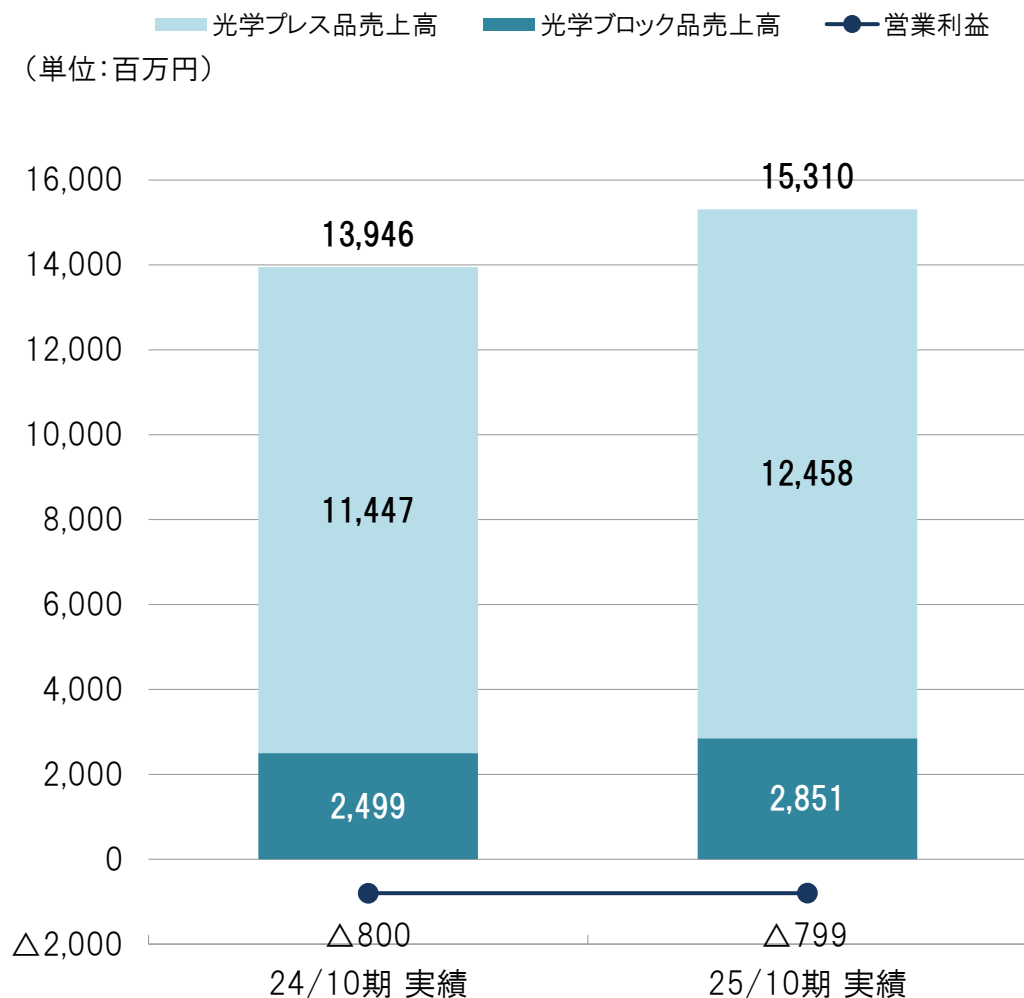
## 売上高四半期推移



## 営業利益四半期推移



## 通期対比

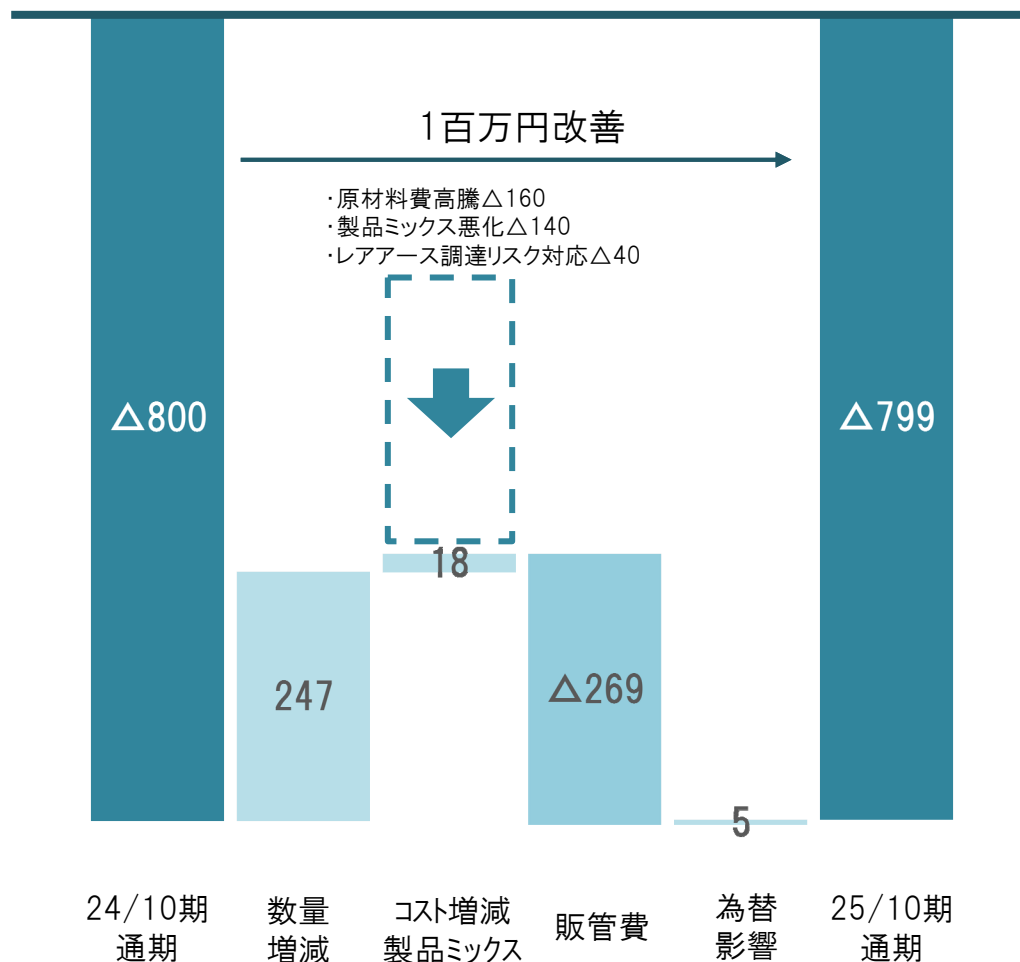


## 業績のポイント

- 売上高は15,310百万円（前期比9.8%増）
- 営業損失は799百万円（前期は800百万円の営業損失）
- 光学プレス品の売上高は日本や中国におけるデジタルカメラ需要、交換レンズ需要が回復したことから前期比で増加
- 費用では、原材料費や販管費が増加
- これらの結果により、前期比で増収、営業損失は同程度の水準となった

## 営業損益増減要因

(単位:百万円)



## 業績のポイント

## 【数量増減】+247

- ・ プレス品を中心に日本・中国向け売上が増加したため前期比で改善

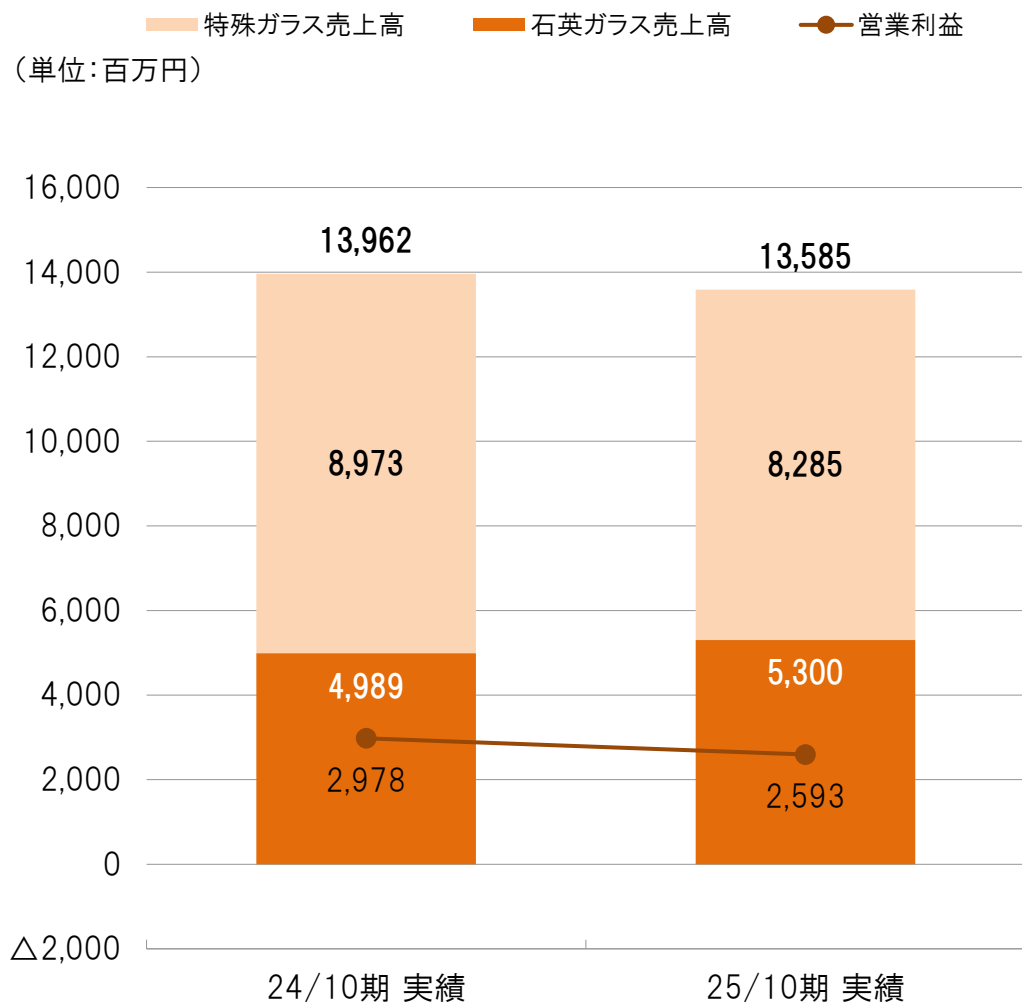
## 【コスト増減、製品ミックス】+18

- ・ 台湾工場で光製品からエレクトロニクス製品への生産シフトを加速
- ・ 収益基盤強化に向け価格改定を実施
- ・ 原材料費の高騰△160、製品ミックスの悪化によるコストの増加△140、レアアース調達リスク対応に関連した費用△40の影響で前期比で改善幅は限定的

## 【販管費】△269

- ・ 光製品の素材開発費用の増加などにより販管費が増加

## 通期対比

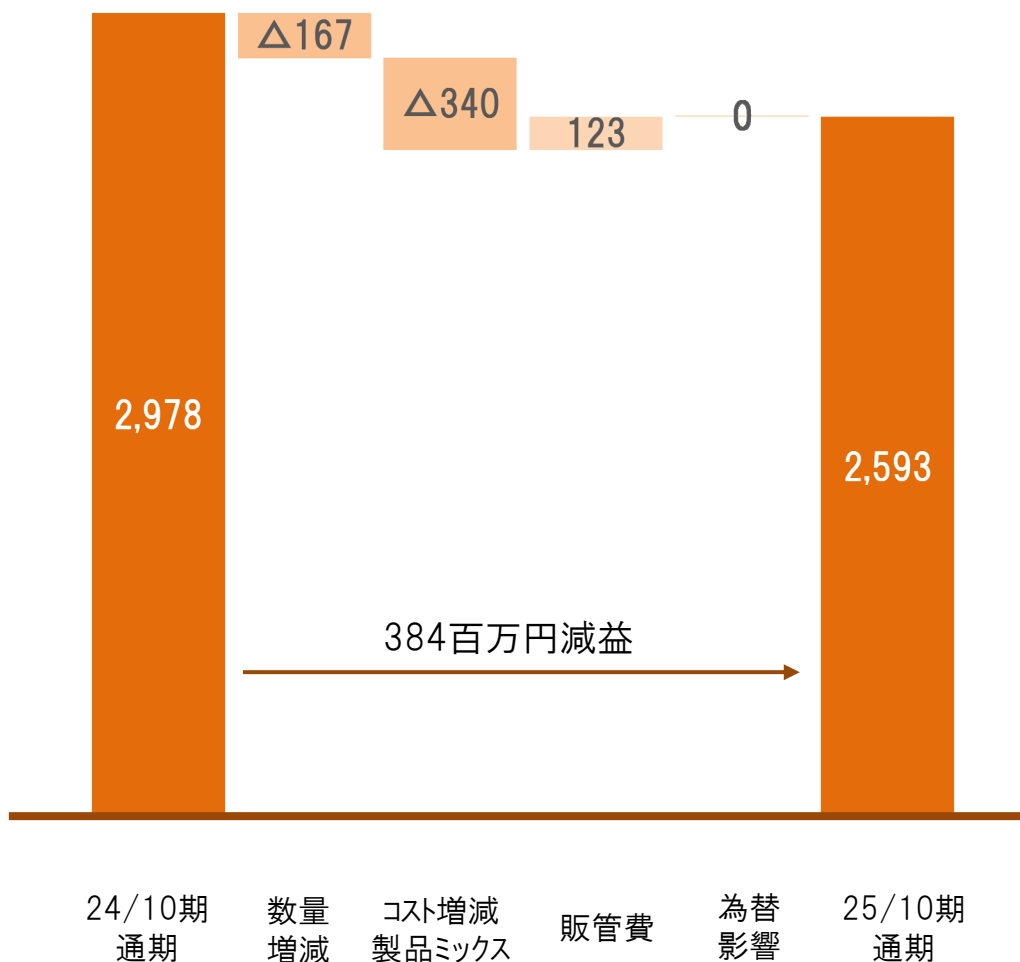


## 業績のポイント

- 売上高は13,585百万円（前期比2.7%減）
- 営業利益は2,593百万円（同12.9%減）
- 特殊ガラスは、AIサーバー向けプリント基板へ使用される低誘電ガラスの売上が増加したものの、半導体露光装置向け製品の在庫調整に伴い売上が減少
- 石英ガラスは、FPD露光装置用途及び半導体フォトマスク向け製品の売上が増加
- これらの結果により、エレクトロニクス事業は前期比で減収、減益となった

## 営業損益増減要因

(単位:百万円)



## 業績のポイント

### 【数量増減】△167

- 特殊ガラスの売上が減少したことから前期比で悪化

### 【コスト増減、製品ミックス】△340

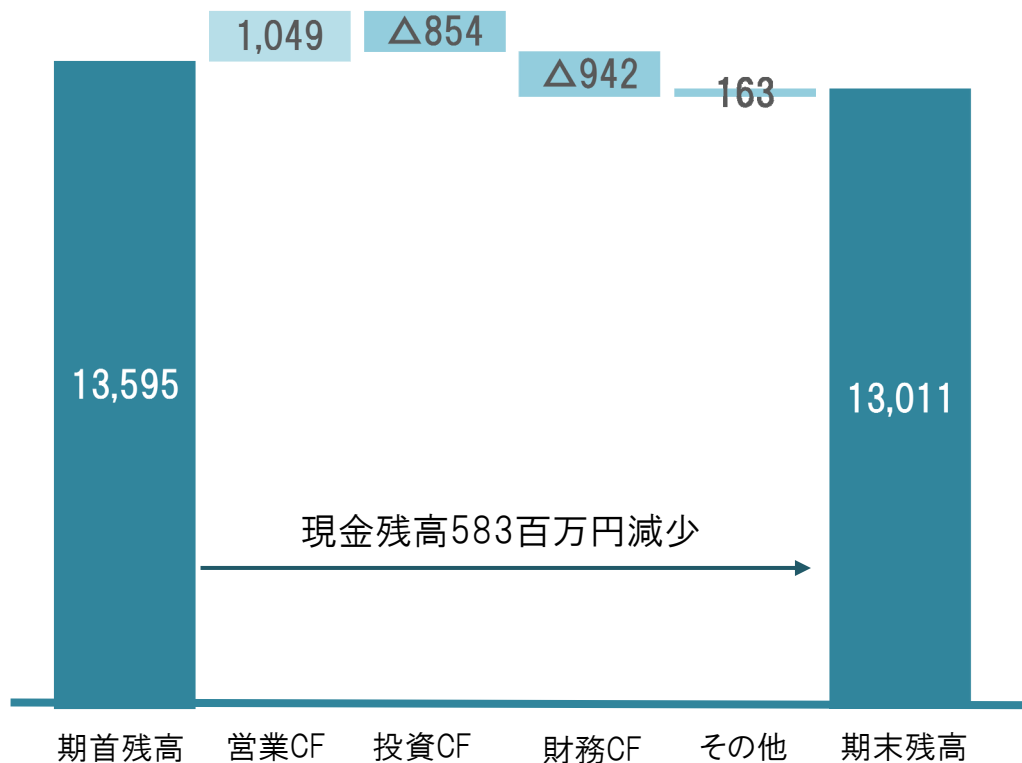
- 半導体露光装置向け製品の在庫調整の影響が大きく、生産設備の稼働率低下、製品ミックスの変化により前期比で悪化

### 【販管費】+123

- 24/10期1Qは一時的な開発費を計上したことから前期比では費用減少

## 増減要因

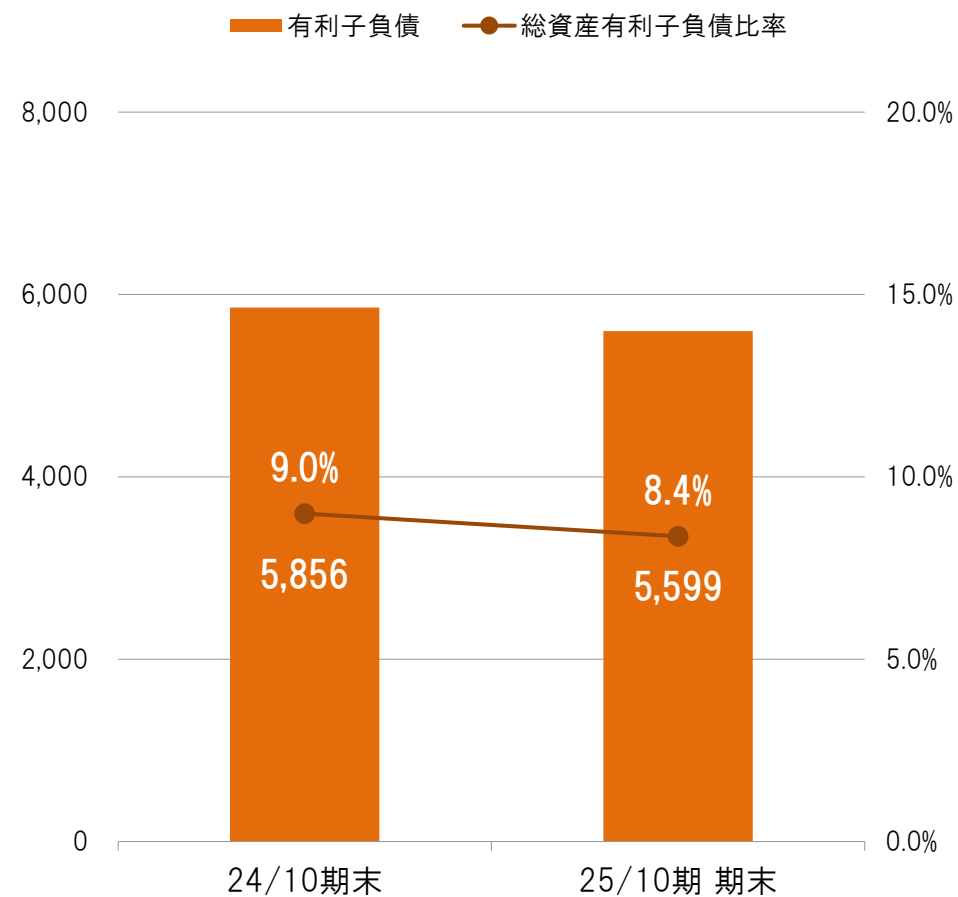
(単位:百万円)



## 有利子負債

(単位:百万円)

(単位:%)



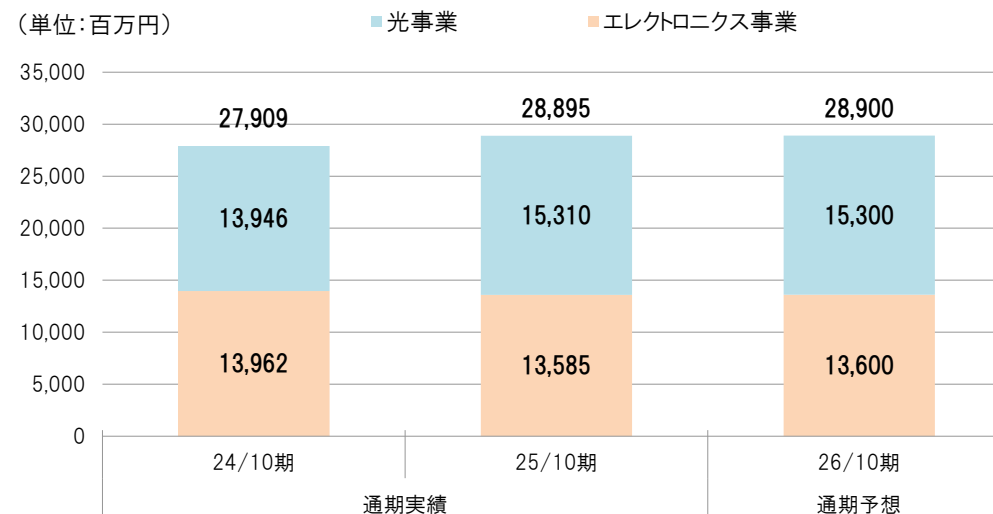
# 2026年10月期 業績見通し

(単位:百万円、%)

	25/10期 通期	26/10期 通期予想	増減 増減率	26/10期 上期予想
売上高	28,895	28,900	4 0.0%	14,100
営業利益	1,794	1,100	△694	300
[営業利益率]	6.2%	3.8%	△38.7%	2.1%
経常利益	2,289	1,600	△689	500
[経常利益率]	7.9%	5.5%	△30.1%	3.5%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,730	900	△830	100
[純利益率]	6.0%	3.1%	△48.0%	0.7%
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 149.34 166.06	期中平均 150.00 165.00		
年間配当金 (円)	25.0	25.0		

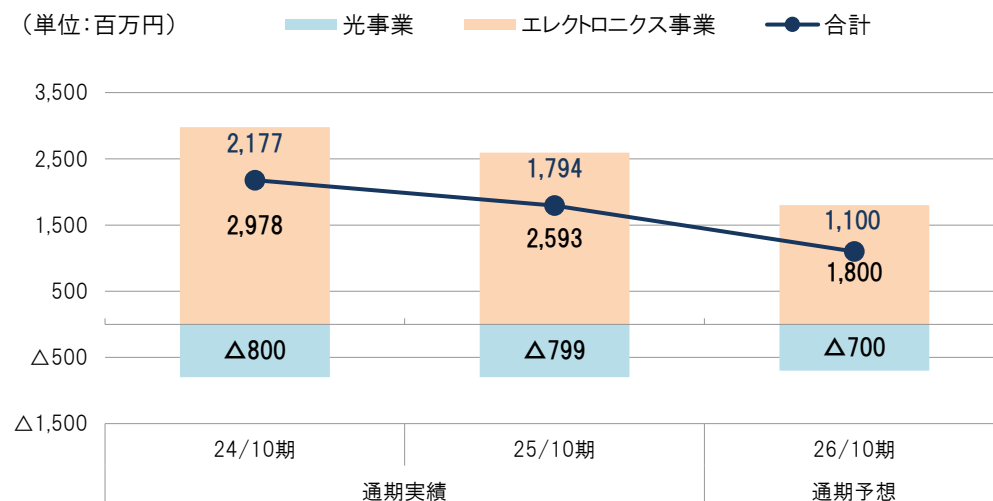
## 売上高内訳

(単位:百万円)

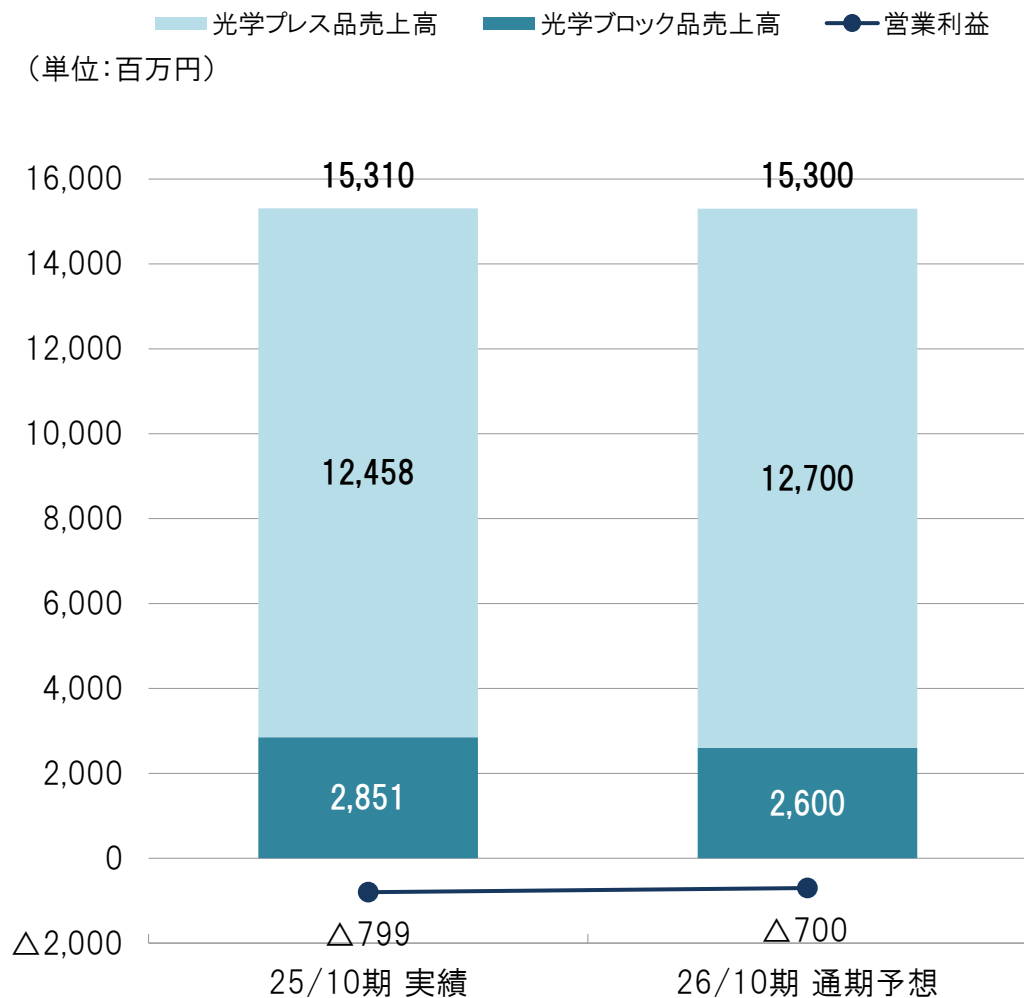


## 営業利益内訳

(単位:百万円)



## 通期対比



## 見通しのポイント

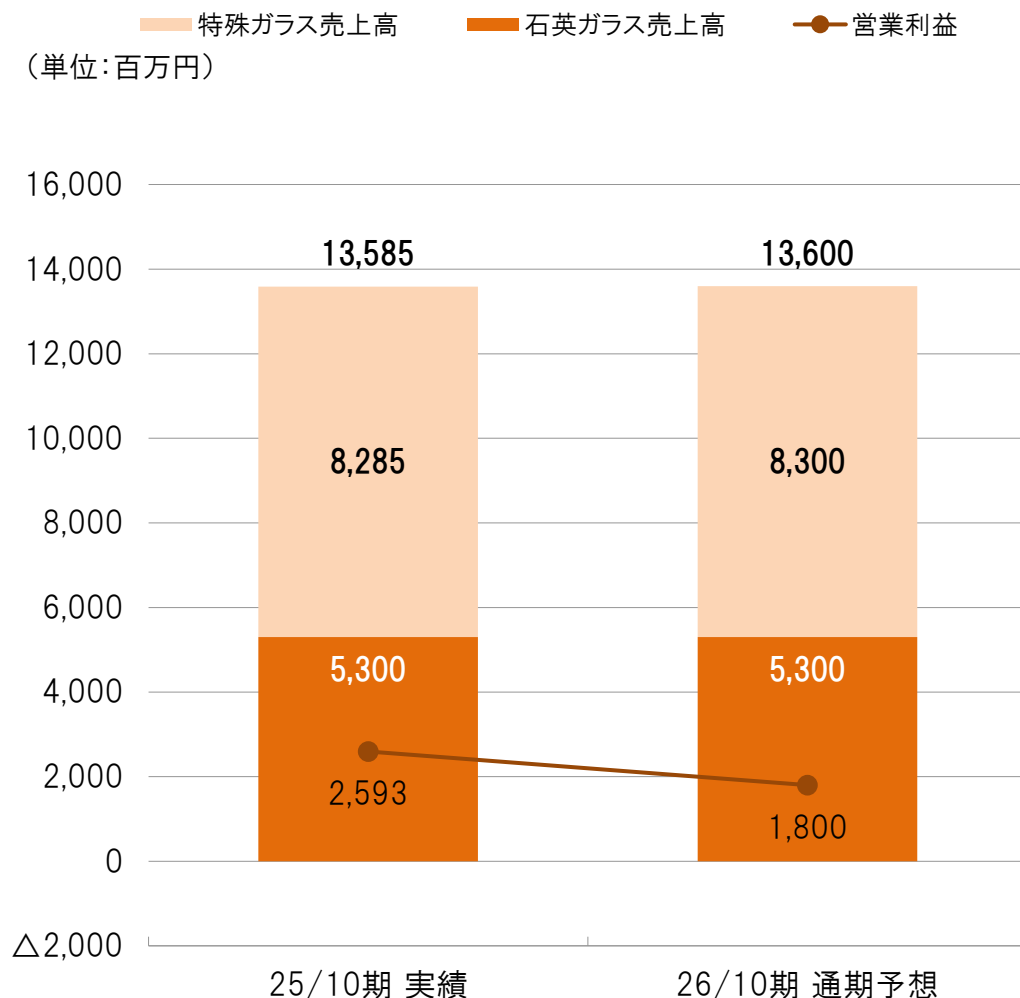
### 【売上高】

- 25/10期と同程度で推移する見込み
- デジタルカメラ市場向け光学プレス品の売上が堅調に推移する見込み

### 【営業利益】

- 光学ガラス生産拠点の再編による生産性向上と製品の価格改定を行い、原価低減と適正利益の確保に向けた活動を進める
- レアアース調達リスク対応に関連した費用が発生する見込み

## 通期対比



## 見通しのポイント

### 【売上高】

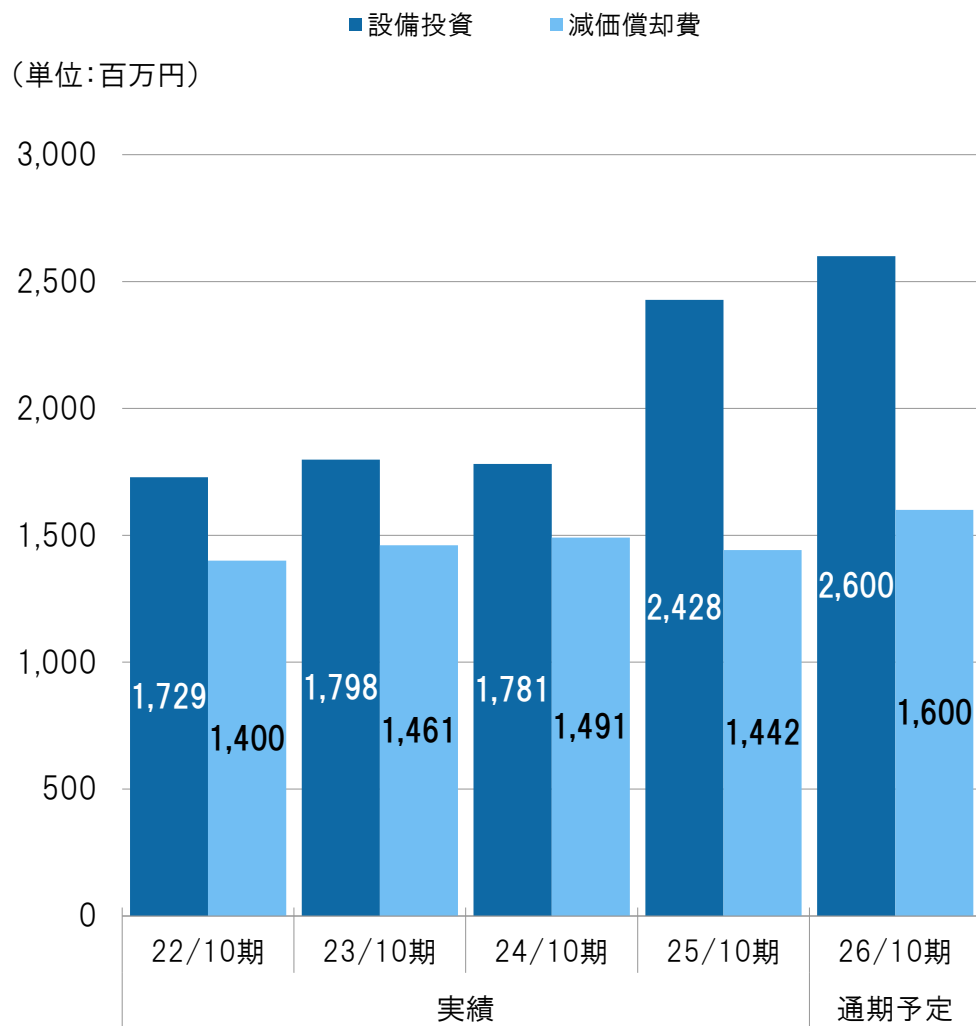
- 前期比0.1%の増収見込み
- 半導体露光装置向け製品は26/10期の上期末まで在庫調整となる見込み
- 低誘電ガラスは、26/10期の下期から顧客の需要に見合った販売を開始する予定

### 【営業利益】

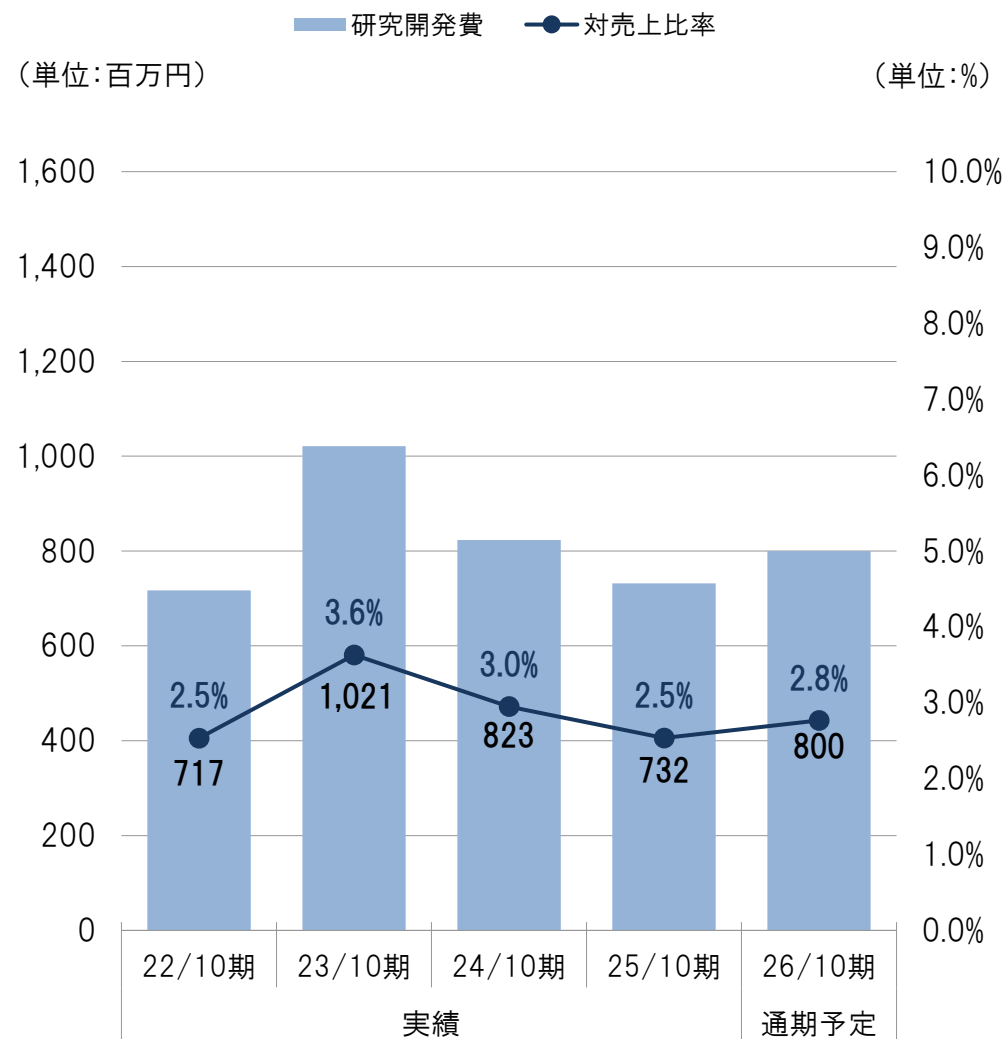
- 前期比30.6%の減益見込み
- 半導体露光装置向け製品の在庫調整による収益力低下に加え、米国関税政策の影響を受ける見込み
- 生産設備投資が増加することから25/10期の業績を一時的に下回る見込み

# 設備投資、減価償却費、研究開発費

## 設備投資、減価償却費



## 研究開発費



## キャピタルアロケーションの考え方

- 営業キャッシュフローを基盤として、余剰資金を有効活用
- 株主還元と事業成長のバランスを重視し、中長期視点で投資を継続的に推進
- 新規事業育成に向けた研究開発や、半導体関連市場などの成長分野に積極的に投資

## 26/10期 キャッシュイン・キャッシュアウト内訳

キャッシュイン		キャッシュアウト	
営業キャッシュフロー ※研究開発除く 約30億円	▶	研究開発 約8億円	・光製品の素材開発 ・エレクトロニクス製品の素材開発 など
		維持更新投資 約7億円	・既存生産設備の更新、改善 など
		成長投資 約19億円	・石英ガラス熔解工程、加工工程の設備増強 ・低誘電ガラス生産設備増設 ・DX化による効率化 など
余剰資金の活用など 約10億円～		株主還元	配当 約6億円 自己株式取得 ～約9億円 ※1

※1 自己株式取得の上限額

※2 自己株式を除く発行済株式総数の約2.6%

## 中期経営計画の進捗

- 半導体露光装置市場向け製品の在庫調整の長期化などの事業環境の変化により、当初想定した前提条件と異なる状況となり、中期経営計画の経営数値目標は未達成の見込み
- 事業戦略は持続的成長を実現させる重要施策として継続

(単位:百万円、%)

	25/10期 実績	26/10期 通期予想	26/10期 中期経営計画
売上高	28,895	28,900	32,000
営業利益	1,794	1,100	3,700
ROE	3.4%	—	6.5%

経営数値目標未達成の見込み

## 事業戦略

経営基盤  
の強化

新規事業  
の探索

既存事業  
の深化

- 収益性の向上
  - ・ 半導体露光装置向け高均質光学ガラス及び石英ガラスの供給能力を拡大
  - ・ XR(クロスリアリティ)向け製品、バッテリー向け製品「LICGC™」などの新規事業の立ち上げ
- 資産効率の向上
  - ・ 既存の生産工程を活用し、低誘電ガラス市場に新規参入
  - ・ 生産拠点間での生産品目組み換えに伴う生産設備の最適化により光事業の収益を改善
- ESG経営の推進
  - ・ 人的資本における価値創造力の強化
  - ・ 省エネルギー活動、カーボンフリー電力の活用、熔解技術開発による温室効果ガス(GHG)の削減

## 光事業

- XR(クロスリアリティ)向けガラス加工品
  - ・ XRは主にプラスチック材を使用するが、精度・耐久性向上のためガラス材ニーズが高まる可能性があり、ニーズに対応したガラス材の開発を推進
  - ・ 市場におけるガラス材需要の拡大は当初予測より遅れ、数年後に拡大すると見込む
  - ・ ハイエンド小ロット向けや試作用途のガラス加工品販売が堅調、中期的に数億円規模の売上を目指す



## エレクトロニクス事業

- 電子基板用低誘電ガラス
  - ・ 25/10期売上実績約5億円、需要拡大により中期的な売上目標10億円は26/10期に達成見込み
  - ・ 台湾工場で新規熔解炉を立ち上げ、生産能力を増強予定
  - ・ 低膨張ガラス材のニーズが高いことから、低膨張ガラス材の試作生産を開始



- バッテリー向け製品 LICGC™
  - ・ 「LICGC™ PW-01」は液系リチウムイオン電池メーカー1社から電池部材としての材料認定を取得、国内外の電池メーカーへの採用拡大に向け、新たな製造ラインを設置予定
  - ・ 「LICGC™ SP-01」は量産技術を確認し生産能力を高めることで、新規需要の獲得を目指す
  - ・ 中期的に5億円規模の売上を目指す



## 光事業

- 収益性の改善が課題であり、以下の取り組みを推進
  - ・ 生産拠点の組み替えによる集中生産と固定費削減により資産効率を改善
  - ・ 光学ガラス原料に含まれるレアアースの調達リスク対応として、一部製品を中国生産に切り替えて対応、また、レアアースを含有しない光学ガラスの開発に着手
  - ・ 高付加価値製品の拡販に向け、東南アジア地域におけるレンズ加工品の新規サプライチェーンを構築



## エレクトロニクス事業

- 成長市場における売上拡大が課題であり、以下の取り組みを推進
  - ・ 半導体市場の中長期での成長の見立ては変わらないことから、石英ガラス熔解工程、加工工程の設備増強投資を実施予定
  - ・ 半導体露光装置向け特殊ガラスの製品ラインアップを拡充
  - ・ 中国を含むアジア地域、欧州での販売体制を強化し、同エリアでの半導体市場向け関連製品の拡販活動を展開

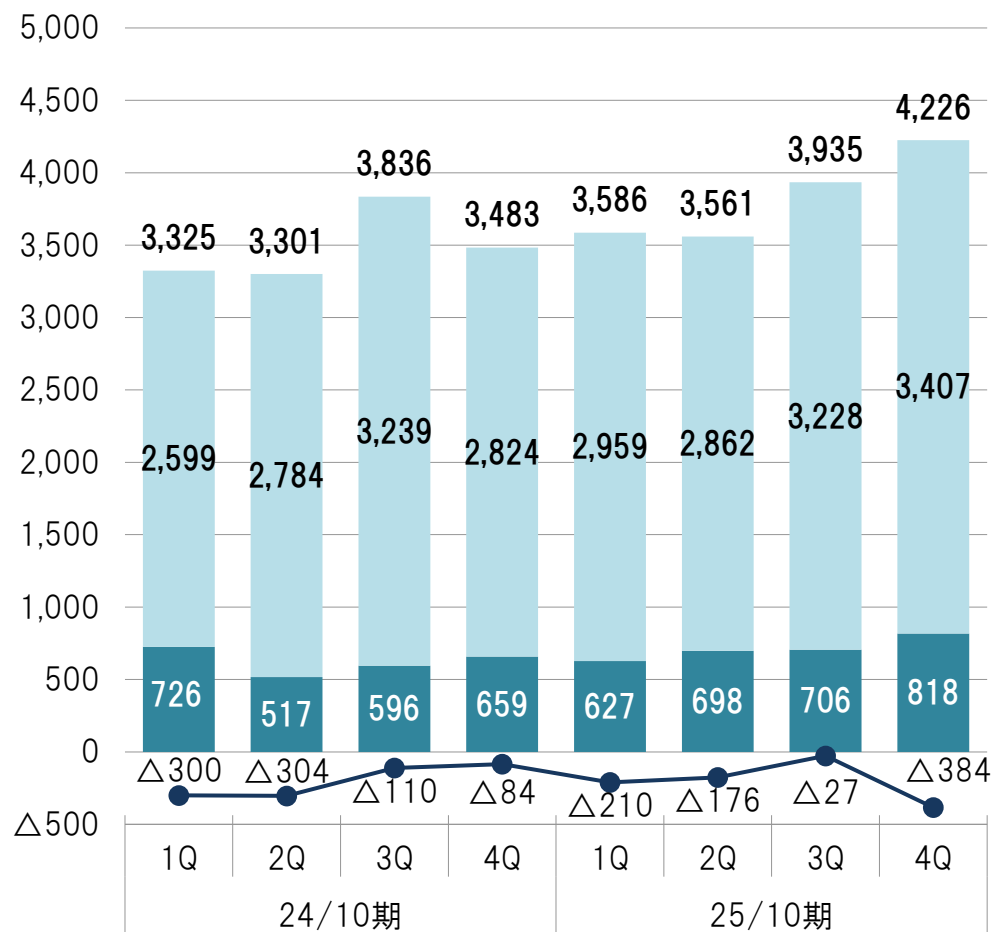


## Appendix(参考資料)

## 光事業

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

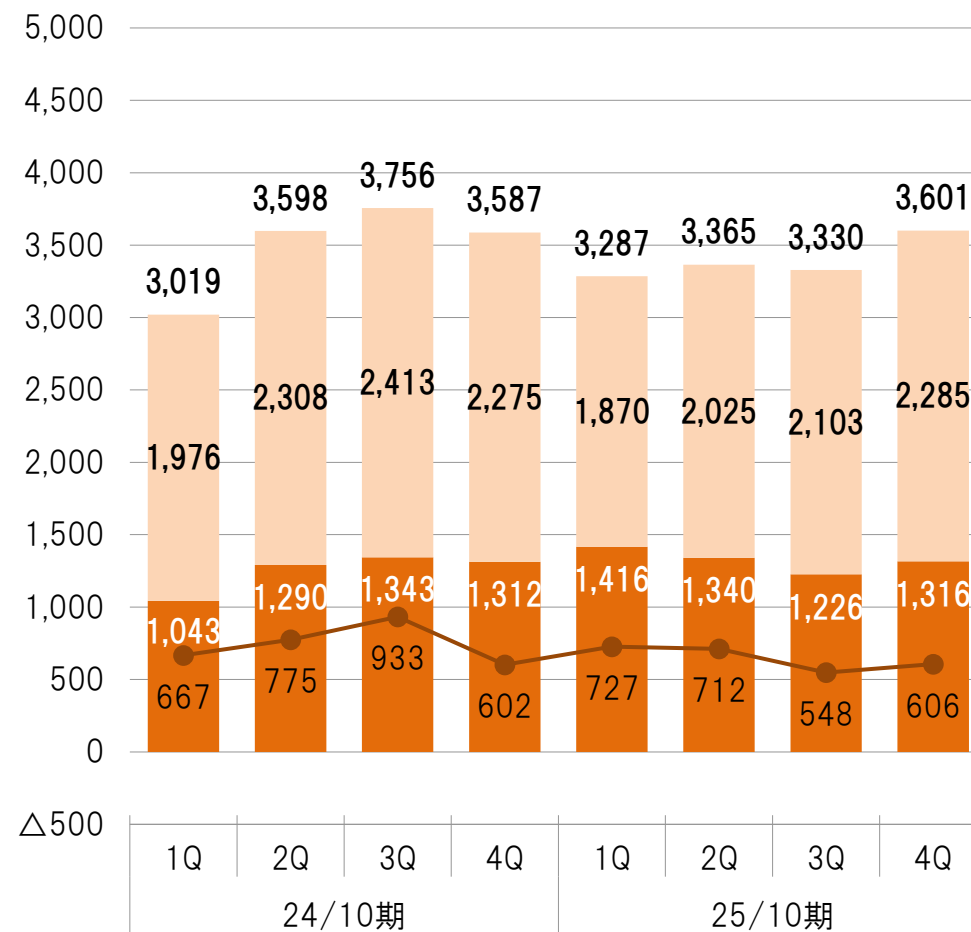
(単位:百万円)



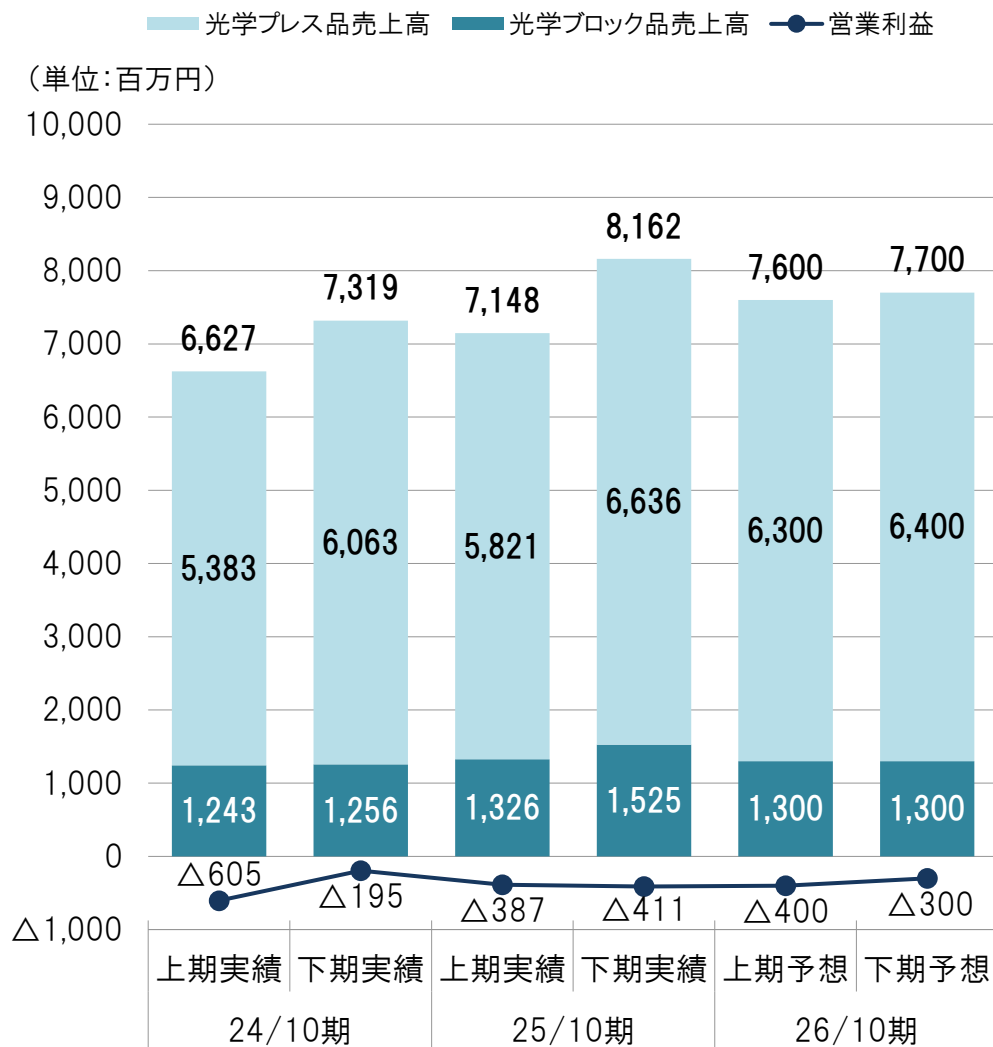
## エレクトロニクス事業

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

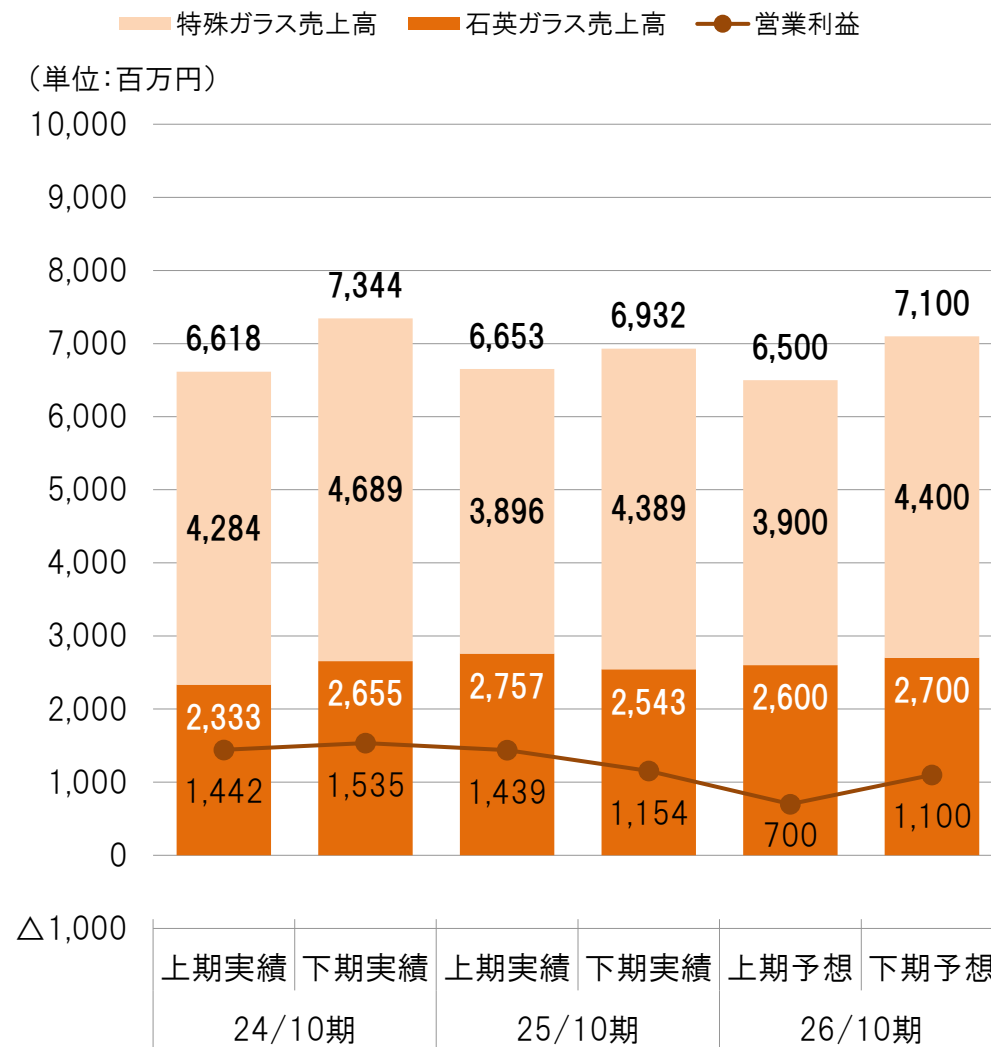
(単位:百万円)



## 光事業



## エレクトロニクス事業



商 号：株式会社オハラ（OHARA INC.）  
 所 在 地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
 創 立：1935年(昭和10年)10月1日  
 資 本 金：58億5千5百万円  
 事 業 内 容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売  
 従 業 員：連結1,421名(単体468名)（2025年10月31日時点）  
 発行済株式総数：25,450,000株  
 株 主 数：10,739名（2025年10月31日時点）



代表取締役社長執行役員  
齋藤弘和

## 役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統轄
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統轄
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業統轄兼事業推進センター長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	米山 拓	
監査役(社外)	浅田 稔	
監査役(社外)	飯塚 良成	

## 大株主

(2025年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーグループ(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.2%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,205	4.9%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	JP MORGAN CHASE BANK 385781	130	0.5%
10	オハラ従業員持株会	119	0.5%

※持株比率は、自己株式1,085千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国  
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本  
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国  
Ohara Corporation



ドイツ  
OHARA GmbH



香港  
小原光学(香港)有限公司



マレーシア  
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾  
台湾小原光学股份有限公司 台湾小原光学材料股份有限公司



- 1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：組織変更をして株式会社小原光学硝子製造所を設立
- 1946 3月：本社を神奈川県相模原市に移転
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパー用ハイホモガラス( $\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$ )量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに商号を変更
- 1987 1月：中華民国台中県に光学プレス品の製造及び販売を目的として  
台湾小原光学股份有限公司を設立
- 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
- 5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
- 11月：OHARA OPTICAL (M) SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
- 4月：ISO14001認証取得
- 10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光學(香港)有限公司設立
- 6月：大規模連続熔解開始
- 12月：小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
- 9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光學材料股份有限公司設立
- 8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
- 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、  
TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
- 12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した  
全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
- 12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、  
超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月：NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
- 8月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、  
キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、  
国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
- 3月：足柄光学株式会社を解散
- 2020 3月：オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」により  
リチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち
- 2022 3月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス『NANOCERAM™』が超小  
型光学衛星KITSUNEのカメラプロテクターとして採用

## 主要製品

### 製品カテゴリ

#### 光学プレス品

##### レンズブランク



##### 研磨レンズ



##### ガラスモールドレンズ (GMO)



#### 光学ブロック品



## 売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	24/10期 累計	25/10期 累計
売上高(百万円)	13,946	15,310
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	55%	65%
プロジェクター	10%	5%
医療機器(内視鏡等)	10%	10%
車載カメラ	10%	5%
監視カメラ	10%	10%
その他	5%	5%
合計	100%	100%

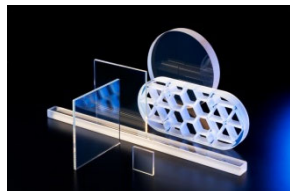
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種類

## 主要製品

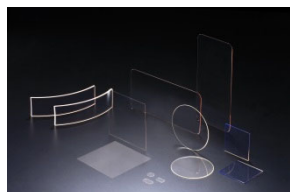
### 製品カテゴリ

#### 特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス  
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度  
クリアガラスセラミックス  
ナノセラム™



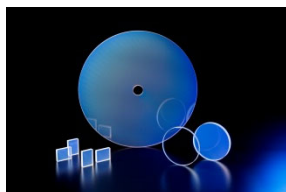
リチウムイオン伝導性  
ガラスセラミックス  
LICGC™



i線用高均質性  
光学ガラス



光通信機器向け  
ガラス素材  
WMS™-15



#### 石英ガラス



## 売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	24/10期 累計	25/10期 累計
売上高(百万円)	13,962	13,585
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	45%	35%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	5%	5%
半導体フォトマスク	5%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	—	5%
宇宙・天文	5%	5%
低誘電ガラス	—	5%
その他	35%	30%
合計	100%	100%

## 経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

## コーポレート・メッセージ

## ブランドスローガン

### ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う  
未来・社会の姿

安心で快適な生活。  
創造と希望にあふれた社会。  
健やかな地球。

オハラの  
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、  
多様なパートナーとともにかたちにする中で、  
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う  
妥協なきものづくり  
挑戦のグッドサイクルを回す  
All OHARAでいく  
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。